

エ タ シ ペ コ ム イ  
(14) ETASPE KOMUY

ワ テ ケ  
Wáteke

ペナンベ アン バナンベ アン ヒネ シラン ヒケ、シネ アン ベ タ バナンベ ビシ タ サン アクス、  
Pénanpe an Pánanpe an híne síran hike, sine an pe ta Pánanpe pis ta san akusu,

ポロ エタシペ ヤン ヒネ アン。ヒネ、  
poro etaspe yan híne an. híne,

「エタシペ！ アエコムイ ナ！」  
"etaspe! aekómuy na!"

セコロ ハウエアン アクス、  
sekor hawean akusu,

5 「ホクレ エンコムイ！」  
"hokure enkomuy!"

セコロ エタシペ ハウエアン ヒ クス オラノ、アコムイ ベコロ イキアン コロ オクストウ アエ ア エ ア  
sekor etaspe hawean hi kusu orano, akomúy pekor ikian kor<sup>1)</sup> oksutu ae a ae a

ヒネ オラウン、タネ エタシペ アッパ ノイネ ネ ヒ クス、  
híne oraun, tane etaspe arpa noyne ne hi kusu,

「ホクレ アッパ、オクストウ チメス！」  
"hokure arpa, oksutu cimesu!"

セコロ ハウエアナン。タネ エタシペ ヘレバシ ワ アッパ ヒ クス オシ エネ ハウエアナン アクス、  
sekor haweanan. tane etaspe herepasi wa arpa hi kusu os ene haweanan akusu,

エタシペ エネ ハウエアン ヒ。  
10 etaspe ene hawean hi.

「ホ マカナケタ？」  
"ho makanaketa?"

セコロ ハウエアン ヒ クス、  
sekor hawean hi kusu,

## (14) トドのシラミとり

鳩沢ふじの (ワテケ)

ペナンベ(川上男)とパナンベ(川下男)がいました。あるとき、パナンベが浜に下りて行きますと、大きなトドがあがっていました。そして、

「トドさん！シラミをとってあげますよ！」

と言いますと、

「さあどうぞとっておくれ！」

とトドが言いましたから、私は<sup>1)</sup>シラミをとるふりをしながら、トドのえり首のところを、むしゃむしゃ食べました。それから、もうトドが沖へ帰って行く様子なので、

「とっとと行け、くびもげやろう！」

と言いました。もうトドは沖へ向かって行きましたので、そのあとから私がそう言いますと、トドが言いますには、

「え、何だって？」

と言いましたから、

1) Pánanpe パナンベを主語とする3人称叙述で始まった話だが、ここから自叙体となる。Pénanpe ペナンベが登場すると再び3人称叙述体にもどる。

「『ホクレ アッパ アコロ エタシベ!』 セコロ、イタカン ハウエ ネ ワ。」  
"hokure arpa akor etaspe!" sekor, itakan hawe ne wa."

セコロ ネ アクス、  
sekor ne akusu,

「チヌ エウエン ベヘ ウン チイエ!」  
"cinu ewen pe he un ciye!"

セコロ ハウエアン コロ イルシカ コロ ホユブ ヒネ ヤン。  
sekor hawean kor iruska kor hoyupu híne yan.

5 オロワノ コッチャウオツ キラアン ヒネ イケサンバ ワ エッ ア エッ ア コロ アン ア ヅ、トオマッ タ  
orowano kotcawot kiraan híne ikes anpa wa ek a ek a kor an a p, too mak ta

バイエアン アクス、ニテッ カ タ バシクル シネッ レウ ヒネ、  
payean akusu, nítek ka ta paskur sinep rew híne,

「フツネ ビナイ カリ、セッ ビナイ カリ、カーッ カーッ フツネ ビナイ カリ、カーッ カーッ セッ  
"hutne pínay kari, sep pínay kari, ka:k ka:k hutne pínay kari, ka:k ka:k sep

ビナイ カリ、」  
pínay kari,"

セコロ ハウエアン コロ アン。  
sekor hawean kor an.

10 ヒ クス オラウン  
hi kusu oraun

「フツネ ビナイ カリ キラアン ヒ ネ ヤッ ビッカ ナンコロ。」  
"hutne pínay kari kiraan hi ne yak pirka nankor."

セコロ ヤイヌアン ベ ネ クス、ネ フツネ ビナイ トウラシ キラアン。アクス イオシ エタシベ エッ ア  
sekor yaynuan pe ne kusu, ne hutne pínay turasi kiraan. akusu iyos etaspe ek a

ッ、ネア ビナイ フツネ ヱ ネ クス、オウノウン ヒネ イオシ エッ カ エアイカッ ヒ クス オロ タ サナン  
p, néa pínay hutne p ne kusu, ounoun híne iyos ek ka eaykap hi kusu oro ta sánan

ヒネ アトイコキッキッ ヒネ アライケ ヒネ、オラノ カミヒ アウニ ウンアルラ ア アルラ ア ヒネ オラノ  
híne atoykokikkik híne arayke híne, orano kamihi auní un arura a arura a híne orano

アエピッカ コロ アナン。  
15 aepírka kor ánan.

ルウェ ネ アクス オロ タ、シネ アン ト タ、ペナンベ サン ヒネ、エネ ハウエアン ヒ、  
ruwe<sup>2)</sup> ne akusu oro ta, sine an to ta, Pénanpe san híne, ene hawean hi,

「イネノ ウエンクル エネ ア ヅマ ヱイキ ヒネ ニシバ エネ?」  
"ineno wenkur ene a p mak eyki híne nispa ene?"

セコロ ハウエアン ヒクス、  
sekor hawean hi kusu,

「エッ イベ コロ アエバシクマ ナ!」  
"ek ipe kor aepáskuma na!"

「『早くお行きなさい、トドちゃん!』と言ったのですよ。」

と言いますと、トドは

「耳が遠いわけじゃないんだぞ!」

と言いながら、おこって、すっとなで来て、浜に上がって来ました。

それから、私は逃げて行き、トドはあとからどんどん追いかけて来ましたが、ずうっと山奥まで行きますと、木の枝の上にカラスが一羽とまっています、

「せまい谷から、広い谷から、カー、カー、せまい谷から、カー、カー、広い谷から。」

と鳴いていました。

そこで私は

「せまい谷から逃げるほうがいいだろう。」

と思いましたので、そのせまい谷をさかのぼって逃げました。するとあとからトドが追いかけて来ましたが、その谷はせまいものですから、体がかえてひっかかって、私のあとに続いて来ることができません。それで、私はそこまで下って行って、トドをぶんなぐって殺して、それからその肉を家へ何回にも分けて運んで、それで裕福になっていました。

そうしていたところ、ある日、ペナンペが川上の家からやって来て、言いますには、

2) ruwe ルウェ は、のみこまれてしまって聞こえない。

「おれと同じ貧乏人だったのに、どうやって金持ちになったのだ?」

と言いましたから、

「来いよ。食べながら教えてやるから!」

セコロ パナンベ ハウエアン アクス、  
sekor Pánanpe hawean akusu,

「ホシキ タシ チヌ ロッ ベ！」  
"hoski tasi cinu rok pe!"

セコロ ハウエアン コロ、アバ サム ウン クチリ テッ ヒネ オラウン、トオ ペナンベ ビシ タ サン。  
sekor hawean kor, apa sam un kucir tek híne oraun, too Pénanpe pis ta san.

アクス、ソンノ カ スイ エタシベ ヤン ヒネ アン。ヒ クス  
akusu, sonno ka suy etaspe yan híne an. hi kusu

5 「アエコムイ ナ、エタシベ！」  
"aekómuy na, etaspe!"

セコロ ハウエアン コロ  
sekor hawean kor

「ヘタッ ホクレ イコムイ ウン！」  
"hetak hokure ikomuy un!"

セコロ ハウエアン。ヒネ、オラノ、ネア ペナンベ、エタシベ コムイ コロ オクストウ エア エア エア  
sekor hawean. híne, orano, néa Pénanpe, etaspe komuy kor oksutu e a e a e a

コロ コムイ ベコロ イキ コロ アン アイネ、エタシベ ヘレバシ レブン。  
kor komuy pekor iki kor an ayne, etaspe herepasi repun.

10 ヒ クス、  
hi kusu,

「ホクレ アッパ、オクストウ チメス！」  
"hokure arpa, oksutu cimesu!"

セコロ ペナンベ ハウエアン。アクス、  
sekor Pénanpe hawean. akusu,

「ホ マカナケタ？」  
"ho makanaketa?"

セコロ エタシベ ハウエアン ヒクス、  
sekor etaspe hawean hi kusu,

15 「「ホクレ アッパ、アコロ エタシベ！」セコロ ハウエアナン ハウエ ネ ワ。」  
"hokure arpa, akor etaspe!" sekor haweanan hawe ne wa."

セコロ アン アクス、  
sekor an akusu,

「チヌ エウエン ベ ヘ ウン チイエ！」  
"cinu ewen pe he un ciye!"

セコロ ハウエアン コロ、エタシベ イルスカ コロ ホユブ ヒネ ヤン ヒ クス オラノ、ペナンベ  
sekor hawean kor, etaspe iruska kor hoyupu híne yan hi kusu orano, Pénanpe

キラ ヒネ ヘマカシ ワ アッパ。  
kira híne hemakasi wa arpa.

とペナンベが言いますと、

「おれが先に聞いたんだ！」

と言いながら、片足をあげて戸口の横にシャッとオシッコをひっかけて、それから、ずうっとペナンベは浜に下りていきました。

すると、やっぱりまた、トドが浜にあがっていました。そこで

「シラミをとってあげますよ、トドさん。」

と言いますと、

「さあ早くとっておくれ！」

と言います。そこで、それから、ペナンベは、トドのシラミをとりながら、そのえり首のところを、ムシャムシャ食べながら、シラミをとるふりをしていました。それから、トドは沖へもどって行きました。

そこで、

「とっとと行け、くびもげやろう！」

とペナンベが言いました。すると、

「え、何だって？」

とトドが言いますので、

「『早くお行きなさい、トドちゃん！』と言ったのですよ。」

と言いますと、トドは

「耳が遠いわけじゃないんだぞ！」

と言いながら、おこって、すっとなで来て、浜にあがって来ましたので、ペナンベは逃げて、山の方へ向かって行きました。

タ、ニテッ カ タ パシクル シネッ レウ ヒネ、  
ik ta, nitek ka ta paskur sinep rew híne,

「カーッ カーッ フッネ ビナイ カリ、カーッ カーッ セッ ビナイ カリ、」  
"ka:k ka:k hutne pínay kari, ka:k ka:k sep pínay kari,"

セコロ ハウエアン コロ アン ヒクス、ベナンベ エネ ヤイヌ ヒ、  
sekor hawean kor an hi kusu, Pénanpe ene yaynu hi,

「セッ ビナイ カリ キラアン ヒ ネ ヤッ タシ、シリセッワ キラアン エニタン ネッ!」  
"sep pínay kari kiraan hi ne yak tasi, sirsep wa kiraan enitan nek!"

- 5 セコロ ベナンベ ヤイヌ ッ ネ クス、ベ ネ クス、セッ ビナイ カリ ベナンベ キラ。  
sekor Pénanpe yaynu p ne kusu, pe ne kusu, sep pínay kari Pénanpe kira.

アクス ネイ パッノ カ エタシベ イケサンバ エアシカイ ベ ネ クス、ベナンベ オシコニ ヒネ、  
akusu nei pakno ka etaspe ikesanpa easkay pe ne kusu, Pénanpe osikoni híne,

ネア ベナンベ アトイコライケ ヒネ、トゥ ライ ウエン ライ ワ イサム。  
néa Pénanpe atoykorayke híne, tu ray wen ray wa isam.

ベナンベ ライ ワ イサム ルウェ ネ クス、タネ オカ ベナンベ イテキ イコイサンバ ヤッ  
Pénanpe ray wa isam ruwe ne kusu, tane oka Pénanpe iteki ikoysanpa yak

ピッカ!  
pirka!

- 10 セコロ アン ベナンベ ウウェベケレ、クイエ ハウエ ウン。  
sekor an Pénanpe uwepeker, kuye hawe un.

エネ アン ウウェベケレ、エカシ フチ ウタラ イエ ヒ ネ アワ。  
ene an uwepeker, ekasi húci utar ye hi ne a wa.

パッノ カ。おわり!  
pakno ka. owari!<sup>3)</sup>

すると、ずうっと山奥に、木の枝の上にカラスが一羽とまって、

「カー、カー、せまい谷から、カー、カー、広い谷から。」

と鳴いていましたので、ペナンペが思うには、

「広い谷から逃げれば、広くて速く逃げられるぞ！」

とペナンペは思いましたので、広い谷からペナンペは逃げました。

すると、どこまでもトドは追いかけることができたものですから、ペナンペに追いついて、ペナンペは、ぶっ殺されて、ひどい死に方で死んでしまいました。

ペナンペは死んでしまったのですから、今いるペナンペたちは、ひとまねをするのではありませんよ！

という、ペナンペの昔話を、私はお話しましたのですよ。

このような昔話をおじいさんおばあさんたちは語ったのでしたよ。

おしまい。オワリ！<sup>3)</sup>

3) pakno ka パクノカは《もう充分だ、これまで》。そのあとの「終わり！」は、聴衆を笑わせるためにおどけて日本語で言っているのである。